

# 会報 わかくさの風 No.19

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>



新年明けましておめでとうござい  
ます。日頃から本会の活動にご支援  
をいただき感謝申し上げます。昨年  
は多くの方々のご支援をいただき、  
いろいろなことに取り組んでまいり  
ました。

「分断」を拒否し「包摂」「共生」へ！

新年明けましておめでとうござい  
ます！

↑第3回戸田わかくさ会  
まつりの様子↓



社会福祉法人改革後地域のネット  
ワークづくりが一層求められていま  
す。そのために本会は昨年、公開研  
修、実践交流会、花火を見る会、さ  
らに第3回戸田わかくさ会まつりを  
開催しました。

戸田わかくさ会まつりは、「みん  
なの笑顔、ハッピーな笑顔」のスロー  
ガンのもと、開催しました。大勢の  
方に参加をいただきました。このス  
ローガンには、障害の有無に関わら  
ず、一人ひとりが「幸福感」を実感  
できる街になって欲しいという利用  
者の願いが込められています。

「幸せ」に感じることの一つに、  
「つながり」があります。地域の人々  
とつながることは、お互いに理解し

合う関係が深まることにもつながり  
ます。障害のある人たちが、街づく  
りの「真ん中」に位置する時代が来  
て欲しいという「夢」を見ました。  
この初夢が「正夢」になればと思っ  
ております。

昨年は「分断」という言葉が目につ  
きました。「分断」が世の中に広  
がると間違いなく「差別の拡大」へ  
とつながっていきます。「分断」は  
決して許すことは出来ません。「包  
摂」「共生」を進めていかなければ  
と考えております。「分断」という  
言葉が新聞などに掲載されない日が  
くればと願っております。

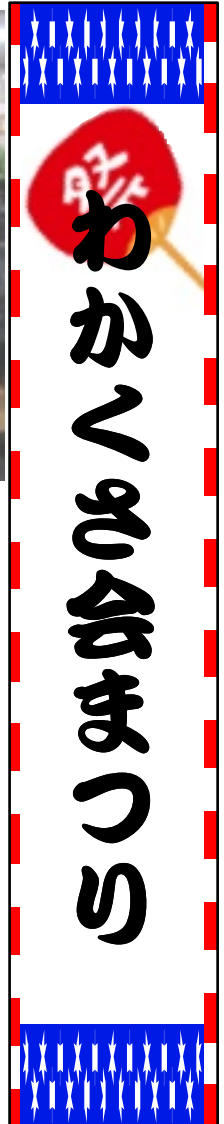
今年には法人の次期中長期計画を策  
定する年にあたります。「共に生き  
る」「共に支え合う」ことをしっか  
り展望できる計画にしたいと考えて  
います。

本会の理念である「フーマライゼー  
ションの実現」「一人ひとりが豊か  
に暮らせる地域社会の実現」を目指  
す年にしたいとあらためて決意して  
いるところです。本年も本会にお力  
添えをいただきますように心からお  
願い申し上げます。皆さまにとって、  
「幸せな年」でありますよう心から  
ご祈念申し上げます。

社会福祉法人 戸田わかくさ会

理事長 横山 ユタカ

統括施設長 竹嶋 紘



# みんなの笑顔 ハッピーな笑顔



### ◆晴天に恵まれ

第3回わかぐさ会まつりは12月8日(土)わかぐさを会場にして行なわれました。

この週は天候が悪く、天気心配されましたが、当日は寒さにもかかわらず、晴天となりました。

今回はわかぐさが会場で前回に



### ◆多彩なステージ発表

比べると手狭でしたので、会場設営や参加の方法を工夫し少し変えてみました。事業所の利用者は午前と午後の参加を基本とし、また、会場内にテントを張り休憩所のスペースを多くとるようにしました。

午前9時には利用者やまつりの従事者が三々五々会場に現われ、準備が始まりました。10時にはティンカー☆ベルのオープニングアクトがあり、まもなく利用者の開会宣言とともに、展示や模擬店が開

始されました。一階はステージと模擬店、遊びコーナー、そして休憩所、二階は表現活動展示と法人以外の施設の

販売コーナーを設けました。ステージ上では、招待団体は「ティンカー☆ベル」と「戸田市児童合唱団」の皆さんで、まつりのステージを盛り上げてくれました。児童合唱団も小さいお子さんも増え、クリスマスにちなんだ曲をかわいらしく披露してくれました。ティンカー☆ベルの中には法人の事業所に通っている利用者もいることから、和気あいあいと大変楽しく演奏をしてくださいました。

このステージのプログラムの中に法人の3事業所の利用者のステージ発表があり、わかぐさは「わかぐさ48」として「恋するフオーチュンクッキー」のダンス、ゆうゆうは映像による施設紹介、かがやきは日ごろの感謝を込めて詩の朗読を披露しました。それぞれ特色があつてよかつたと思います。遊びコーナーをわかぐさの入り

口横の広場に設け、子どもさんに好評で、入れ替わり立ち代り、親子で楽しんで遊んでいる姿が印象的でした。バルーンアートでのボランティアの方の参加もあり、まつりのポスターを見てボランティアを希望した学生さんあり、まつりを盛り上げる助けとなりました。



### ◆大抽選会

今回もこのまつりを実行するにあたりたくさんのボランティアさんにご協力をいただきました。駐車場、駐輪場の従事、製品販売、利用者の誘導など本当に助けていただきました。昼頃には、後援会の豚汁やだんごに列ができ、焼きそばやカレーにも参加者が殺到しました。休憩所で談笑しながら食事をする人も多く、会場が狭いながら、地域との交流の目的は果たせたと感じています。戸田市の菅原市長をはじめ福祉部長、障害福祉課長の皆さんがお昼近くにお見



えになつてくださり、熱心に利用者をはじめ会場の方とお話ししてくださりコミュニケーションが深まったのではないかと感じています。午後2時半には今回の目玉である大抽選会も開始されステージ会場は参加者で人があふれんばかりでした。景品は自転車、デイズニーチケット、お米など当たった人は大喜び。抽選が行われる度にどよめきが起こりまつりの最高潮に達しました。この景品も個人や企業による協賛金のおかげです。協賛金は会場の備品を借りたり、景品を購入したり運営のために有効に使わせていただきました。改めて御礼申し上げます。

◆地域の皆さんと共に

まつり自体は10時から午後3時までの5時間足らずで終わってしまいましたが、この時間、法人事業所の利用者、後援会の方々、また、その他地域の皆さんの交流ができたことは大変有意義なことと感じます。まだまだ、不十分だとは思いますが、わかくさやその他の事業所も地域あつてこそです。で、今後とも地域の皆さんにも一緒に楽しんでもらえるようなイベントにしたいと考えています。本当に皆さんお疲れ様でした。

(わかくさ 鈴木)



利用者実行委員より

今回のおまつりでは地域清掃の担当でした。寒かったけどきれいに掃除できたと思います。

抽選会の担当も行いました。大勢の人の前で話をするのは緊張したけど、いい経験になったと思います。

担当の仕事を頑張った分、おまつりを周ったときは楽しくすごせました。

準備がうまく出来てなかったところもあって、あわててしまったりすることもありましたが、いいおまつりになったと思います。来てくれたみなさん、ありがとうございました。

かがやき Aさん

実行委員会より

ご来場いただいた皆様・ご協力いただいたボランティアの皆様には改めてお礼申し上げます。

当日は近所の方や、子どもたちも来てくださり、一緒に盛り上がりました。わかくさ会とはどのようなどころなのか、どんなことをやっているのか、どのような方が頑張っているのかを知っていただけたのではないかと思います。

今回のキャッチフレーズは、みんなの笑顔 ハッピーな笑顔です。このキャッチフレーズも利用者の皆さんから募り決めたものです。おまつりに参加した利用者だけではなく、地域の方・ご家族・もちろん職員も含めおまつりに来て下さる全ての



方が笑顔でおまつりを楽しむという想いを込めました。準備不足な部分もあったかと思いますが、皆さんは笑顔でおまつりを過ごせましたでしょうか。

(かがやき 寺内)



# 各事業所の取り組み

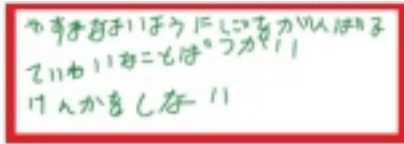
## わかくさ

### 2019年に向けて…

わかくさはA班・B班それぞれで2019年をどんな1年にしたいか話し合い、それぞれの思いや意見をまとめて各班の抱負としました。2019年はこの抱負を胸にみんなで頑張っていけます！

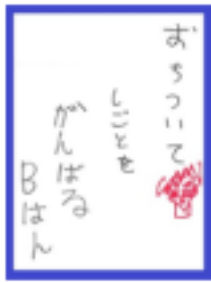
#### 《A班の抱負》

元気にわかくさに来て、仕事を頑張りたい。相手を思いやり、みんな仲良く気持ちよく過ごしたいという思いからこの抱負に決まりました。



#### 《B班の抱負》

昨年は作業量が増えて忙しい日も多くあったので、今年もみんな協力して仕事をがんばりたい。大変な仕事も楽しみなイベントも



意見があり、この抱負に決まりました。2019年も宜しくお願致します。  
(永井)

仲間と共有し合いながら仲良く楽しく過ごしたいという

## ゆうゆう

### 楽しく働くために

#### 【一泊旅行に行ってきました】

毎年恒例の一泊旅行に10月18日、19日と行ってきました。今年には「山梨県」。富士急ハイランドに行き、山中湖を水陸両用バスで遊覧するというコースでした。バスに乗る事、夜の宴会、就寝準備をしながらのおしゃべり、どれも旅行の楽しみとなっっています。

#### 【旅行に行くために】

毎年この一泊旅行に行くために、旅行が終わったその月から、もう次の年に向けて、旅行積み立てが始まります。毎月のお給料日に、

もらったお給料からみなさん二千円を積み立てます。



#### 【来年度にむけて…】

最近、旅行の写真を自治会で見る機会がありました。「楽しかったね〜」「また行きたいね」という声が聞かれます。

夏の駅前清掃は暑いし、納品の荷物は重いし、秋の落ち葉掃きは辛いし、雪でもフラワーセンターは仕事だし。決して楽しいだけではない『仕事』でも、「旅行に行くために仕事を頑張ろう」というモチベーションで楽しんで頑張れるといいですね。

また行けるように、みんなで頑張りますよ。

(浜田)

### ホンダカーズ様から

### 寄贈品を頂きました！



素敵なご縁に感謝いたします。本当にありがとうございます。 (浜田)

ホンダカーズの労働組合「ホンダ販売労働組合」社会福祉活動の物品寄贈活動を担当する方が、ある日ゆうゆうにいらつしやり「怪しい話ではないんです」「金額の範囲内であれば好きなものを何でも寄贈します」というにわかには信じられない話をしてくれました。みんなでワクワクしながら欲しいものを選び、和菓子作業で使う、音で完了を知らせる「シーラー機」と、通年販売ができるようになった水羊羹を冷やすための「冷蔵ショーケース」をお願いし、12月に実物をお届け頂きました。

ゆうゆうの活動をご存知の方がゆうゆうを推薦してくださいました。地域の皆さんに応援される事業所になるように」と頑張ってきたご褒美を頂けたような気がします。

# かがやき

## マイイベントを通じて 生活の質の向上を

### ◆生活を豊かに

かがやきは就労に向けた取り組みを中心として行っていますが、生活の部分の充実も長く仕事を続けていくうえで重要な要素の一つです。

生活の部分より豊かにするため、かがやき独自の取り組みとして少人数のグループで外出の練習を行う「マイイベント」というものを行っています。施設全体での旅行という形ではなく、自分たちのやりたいこと・行きたいところを出し合ってもらい、希望する内容ごとに3〜5人程度の少人数のグループをつくり、当日の計画・準備を組み立てる練習の機会として取り組んでいます。出かける為に必要なこと(持ち物・交通手段・スケジュール等)をグループの皆さんで考え実行することで、今後自分たちで出かける力を身に付けるきっかけとしています。自分たちで進めるのが難しいグルー

プもありますが、その際には職員からの資料の提供や方向性を一緒に考えるようにサポートをしています。

### ◆実施した後もみんなで共有

実施した後も、どのようなことができるようになったのか、次に出かける際には何を気をつければよいのか振り返りを行っています。また、昨年からは全体に向けての発表も取り入れ、他のグループの方がどのようにしてマイイベントを行ったのかをみんなで共有する取り組みも行っていきます。

マイイベントの取り組みから、自分たちでやりたいことを決め、充実した余暇を過ごせるよう、私たちも引き続き支援を行っていきます。

(寺内)



# グリーンガラス

## 入居者の声で実現 グリーンガラス下笹目 日帰り旅行



### ◆入居者の声から

グリーンガラスでは、月に一度利用者を中心としてミーティングを行っています。誕生日会のメニューや日程の他に、節分や七夕などに行う事を決めていきます。ミーティングの時に利用者から「日帰り旅行に行きたい」と話がありました。グリーンガラス下笹目では誕生日会は、ほぼ毎月ありますが、年間の行事以外で、ホームの皆で休みの日にどこかに行くという事自体が、あまりありません。「お休みの日を使って皆でお出掛けをしたい」という利用者から出た声を大切にしたと考え、日帰り旅行を行うことになりました。

### ◆一人ひとりの意見を大切に

動物園・水族館・カラオケと意見が出たところで、それぞれのイメージできる写真をしばらくホーム内に掲示をして、みなさんに考えてもらう時間を作りました。夕食後の時間には入居者同士で話題になるなど、日帰り旅行に向けた気持ちづくりにもなりました。1人ひとりの意見を聞いた結果、日帰り旅行とは言いつつもカラオケとなりました。

### ◆日帰り旅行(イベント)

イベント当日に利用者には、サブライズとしてボランティアの方に協力していただきました。初めての方も大興奮!無事に怪我や事故も無く、イベントを行うことが出来ました。「楽しかった。また行きたい。カエルの歌をいっばい歌った」などホームの中でもたくさん感想を話されていました。

「来年も行きたい。新年会は何をするのかな」と早くも次回を楽しみにしている方もおり、新年会に向けて、話し合いを進めていきます。

利用者からの声を汲み取り、実行することで、利用者も自信が付き自分から発信する機会を増やせたらと考えています。今後も「自分たちの事は自分たちで決める。実行すること」を大切に頑張りたいと思います。

(中根)

# わかば・ひかい

地域で暮らしたい！  
「地域移行支援事業」  
について②

## ◆Cさんの事例を通じて

前号でわかばが行っている「地域移行支援事業」のことをお話ししましたが、今号ではその地域移行支援の業務をCさんの事例で紹介したいと思います。

戸田市内にお住いのCさん(50代)は一人暮らしで、体調を崩して精神科病院に入院していました。体調が安定したため、入院前から関わっていた戸田市自立相談センターに病院から外泊支援をしてほしいと電話があり、同センターからわかばへ連絡が来しました。

早速病院に連絡して訪問し、ご本人と面談をしました。お金が心配、病院から家までの道がわからないと心配事を話されたため、障害年金の申請手続きを手伝ったり、外泊時に付き添って行き帰りの道順を一緒に確認したりしました。最初は不安が強かったCさんですが、2回目は道に迷うことなく家にたどり着き、「もう大丈夫です」

と笑顔も見られました。

## ◆安心して暮らせるように

退院後はデイケアを利用することになり、ご本人と一緒にデイケアの訪問をしました。退院後、デイケアに休まず通っています。電話がつながらずに心配して訪問した時には、炊き込みご飯のいい香りがして「料理をしています・・・」と本人苦笑い。退院して2週間。地域で安定して暮らせるよう、わかばはこれからもCさんを応援していきます。

(わかば 吉長)

## 地域移行支援事業とは・・・

障害者支援施設に入所している方や精神科病院に入院している方が、地域へ移行し生活するために必要な支援を、退所・退院前から支援する事業です。



# 就労C・みなみ

障害者就労環境の

様々な変化

## ◆様々な変化

障害者雇用率の水増し問題など、障害者雇用の現場では様々な変化が起きて始めています。

就労移行支援事業所では、福祉法人が運営する事業所が相次いで閉鎖する事態に追い込まれ、企業が運営する就労移行事業所が年々増加しています。

就職した後の定着支援においても「就労定着支援事業」が始まり、企業系の就労移行事業所の多くが事業を開始しています。介護業界と同様に、障害福祉事業に企業が参入する流れが加速しています。

## ◆雇用企業の変化

企業が障害者を雇用する枠組みにも変化が出ています。従来は特例子会社を立ち上げる方法が最も一般的でしたが、数年前から、障害者雇用のコンサルタント会社が「働く場所と仕事」を用意し、各企業と業務提携して雇用と管理を

請け負う(雇用率は各企業に算入)という雇用形態が増え始めています。

## ◆支援機関として

障害者が働く場所が増えることは嬉しいことですが、「雇用率ありき」の風潮が目立ち始めていることも事実です。

このような変化の中で、福祉の専門機関としてどのように対応すべきか。

私たち支援機関には「障害者の方が安心して自己実現できる職場環境を整える」という大きな使命があります。「どんな時代になっても、守らねばならないことを守り通す」強い意志を持ちたいと思います。

(就労C 山本)



# 「虐待防止・権利擁護研修会」

「虐待の芽をどう防ぐか」

## ◆当事者の発表

9月21日、虐待防止・権利擁護研修会を実施しました。この研修は各事業所で配置している虐待防止責任者で構成される委員会によって運営され、当日は法人内8事業所50名の職員が参加しました。研修は2部構成となっており、前半は一般就労、作業所を利用している当事者の方2名に、虐待の実体験を話していただき、その後グループワークを行いました。後半は講義を行っています。

当事者の一般就労での実体験の話では、社員から怒鳴られたり、障害のある方を蔑む発言があったことや、事業所での話では、職員から威圧的な指示や不快と感じる身体的接触があったことなどが話されました。当事者の話の中で、「普通の人と同じように接して欲しい」と話されており、「特別」に接してしまうことで虐待につながってしまうこと、そして支援者は同等の立場であることを再確認する機会となりました。

## ◆支援者の気づき

グループワークでは、障害福祉に携わった経験年数で分かれ、当事者の話を受けて、虐待の起きた背景や起こさないようにするための方策について検討しました。検討された意見の中には、「障害に対しての理解が不足していたのではないか」「『慣れ』によって関わり方がずれてしまったのではないか」「当事者支援者間の問題だけではなく、事業所として支援者間で指摘や相談しやすい風通しのよさが必要ではないか」など、多くの意見ができました。これらの皆さんの『気づき』は、当事者の方の話の中だけで留まることなく、職員一人ひとりが勤務して



いる事業所で置き換えることのできる意見が多く見受けられました。今回、当事者の方から話をしてもらうにあたり、振り返ることで嫌なことを思い出し、繰り返さないようです。同じ過ちを繰り返さないでほしいと勇気を出して話をしてくれました。改めて深く感謝するとともに、しっかりと今後の支援に活かしていきたいと思えます。

## ◆施設全体の取り組み

後半では、障害者生活支援センターわかばの猪野所長より「虐待の芽をどう防ぐか」という内容で講義を行いました。障害者虐待防止法の理解を深めるとともに、特に『心理的虐待』や虐待と適切なケアとの間にある不適切なケア『グレーゾーン』、施設における虐待の特徴を中心に話をしてくださりました。猪野所長の体験を織り交ぜながらの講義はとても考えさせられる内容でした。

受講した職員の感想では、「自分が虐待をしないようにという意識はあるが、『施設全体で虐待の芽をなくそう』『他の職員と適切なケアについて率直に話し合おう』という意識が薄かったことに気づく機会となった」など、個人の責任だけでなく、チーム、組織として考えていく必要があるといったことや、また、「現

場では当たり前になっていることが、果たして利用者にとってプラスになっているのかという視点が必要だ」という意見も聞かれました。また、「日頃の支援を振り返る機会となっている感想が多く見受けられました。」



毎年行われている法人内の虐待防止・権利擁護研修ですが、繰り返し学ぶ機会を改めて確認することができました。戸田わかばさんでは、虐待防止チェックシートを用いた振り返りを今年度より定期的に行っています。また十分に活用しきれない実態はありますが、虐待防止への意識を高く持ち続けることにつなげていきたいと考えています。また、日頃より相談しやすい良好な職場づくりにも力を注ぐ必要があります。この研修での学びを職員一人ひとりの糧として活かしていきたいと思えます。

虐待防止・権利擁護委員会

石川 丈



# 表現活動

## 埼玉県障害者アート企画展が開催されました!

画展『ソニックブーム!うふっ』が開催されました。これは、埼玉県全域から選抜された52人のアーティストによる展覧会です。戸田わかくさ会からは、なんと、ゆうゆうの西隆博さんが入選しました!

平成30年11月23日から11月25日の3日間、大宮のソニックシティで「第9回埼玉県障害者アート企画展」が開催されました。

展示されたのは、西さんの大好きな新幹線・船・トラックを描いた4枚の絵です。この展覧会では3日間で1,300人ものお客さんが来場しましたので、それだけのお客さんに西さんの絵を見てもらえたことを思うと、とても嬉しいです! ご来場いただいた皆さま、ありがとうございます! (わかくさ清水)

埼玉大学の教育学部で美術論と絵画制作について教鞭を取っている小澤基弘教授は、西さんの描いた乗り物の絵を「すごく良い! 手触りを感じる! 強烈に! 乗り物と空間が一体化した空気を感じる!」と絶賛!!!  
アートディレクターで美術家の中津川さんと新潟市美術館の館長・前山さんによるギャラリートークでは「水彩の持つ美しさ」を引きだしていると評価されました!!

## 予定

### 「成人を祝う会」

日付: 1月26日(土)  
時間: 10時~11時  
会場: 戸田市文化会館

304会議室

今年度はわかくさの方2名を新成人としてお祝いします。



### 「第20回親の5年後・子の5年後勉強会」

日付: 2月14日(木)  
会場: グリーングラス下笹目  
今回の勉強会はグループホームについて、実際にグリーングラス下笹目の見学をしながら行います。



### (編集後記)

あけましておめでとうございます。2019年は亥(イノシシ)年。イノシシのようにまっすぐに力強くわかくさ会を盛り立てられるように頑張っていきます。ですが一直線すぎると時にはあらぬ方向に進むことも…。様々な方の意見や知識も取り入れて多角的な視点を持って支援を行っていけるように心がけます。(寺内)

### (法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、指定特定相談支援事業所ひかり



(ホームページはこちら)  
<http://www.wakakusa-kai.com/>  
facebookもやっています

### 【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会  
〒335-0021 戸田市新曽1522-1  
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298